

2007 年度
日本学生オリエンテーリング選手権大会
ロングディスタンス競技部門
報告書



- 期日 2007(平成19)年11月11日(日曜日)
- 場所 栃木県日光市
- 主催 日本学生オリエンテーリング連盟
- 主管 2007年度日本学生オリエンテーリング選手権大会実行委員会
ロング・ディスタンス競技部門
有限会社ジェネシスマッピング
- 後援 日光市、日光市教育委員会
毎日新聞社
栃木県オリエンテーリング協会
- 協力 日光だいや川公園

ご挨拶

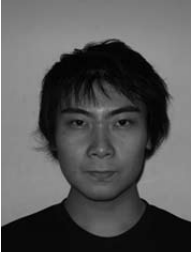


冷たい雨が断続的に降るあいにくの天候でしたが、参加者の皆さんの今回のインカレはどんなレースだったのでしょうか。男子選手権は距離11km・アップ400mというコースにもかかわらず、秒差の優勝争い、女子はトップの関谷選手こそ独走でしたが、3位から5位までが1分以内にひしめく、ミドル競技さながらの激戦で、見る側としては大変楽しませてもらうことができました。

今回のトレインは、良質のトレインに恵まれた日光の中でも、緩急に富み抜群の走行可能度をもつ、オリエンテーリングの醍醐味を十二分に味わえる最上級のトレインだったと思います。雨さえ降らなければ、本当に気持ちの良い走りを楽しめたと思うと少し残念ではありませんが、記念すべき30回目を迎えたロング競技にふさわしい、よい大会となりました。

貴重な時間を割いて、準備と当日の運営を担当してくれた実行委員会関係者諸氏にまずは感謝したいと思います。さらには、大きなトラブルもなく、このように成功裏に終了できたことは、一重に地元関係者の皆様の暖かいご支援ご協力があったからこそです。今後もインカレその他のイベントを通じて日光地区の皆様とよりよい関係を築いていけるよう、現役学生はじめ学連関係者一同、努力していく所存です。この度は本当にありがとうございました。主催者の日本学連を代表して、改めて厚く御礼申し上げます。

日本学生オリエンテーリング連盟
会長 河合 利幸



今年度のインカレロングも無事に終了致しました。天候は曇り、閉会式の頃には若干雨が降ったようですが、基本的に大きなアクシデントもなく盛況のうちに閉幕することができたということがなによりです。開会から閉会を通して、毎年恒例のインカレ独特の盛り上がりもいたるところで見ることができ、伝統のインカレは今年も健在であったこと大変嬉しく思います。

さて、視点を若干移して、ここで学生オリエンテーリング界というものに少し触れてみたいと思います。

涉外問題などオリエンテーリング界においては常に注視せねばならない問題は毎年たくさん抱えておりますが、中でも近年急速に状況が変わってきたことで、特に意識せねばならなくなった問題があります。それは学生加盟員の減少です。毎年、各々加盟校で新歓活動を行っている現役の加盟員であれば、

誰もが一度は意識したことがある問題なのではないでしょうか。加盟員もとい学生が減るということは、インカレの加盟員が減っていくだけでなく、インカレを運営して下さるOBOGの方が減るということにも繋がります。このような状況が続くと、今は想像ができなくても、やがてはインカレ運営者が集まらず、インカレが開催できなくなってしまうということも起こりうることなのです。

このような状況の中で、私達一人ひとりとはオリエンテーリング界の現状に対して危機感を持ち、より積極的にインカレに関わっていく姿勢を持つことが必要になってくるのではないのでしょうか。

それは競技的な面での取り組みはもちろん、同じクラブ員をインカレに誘うことや、インカレに対する私見を語ること、あるいは運営に直接関わっていくことも大事な姿勢となってきます。

このような意識を少しでも持っていくことで、参加者と運営者が一体となるような次世代のインカレを作り上げていくことが求められます。

最後になりましたが、お仕事等忙しい中、インカレ運営に携わってくださった関係者の方々、そして地元の皆様には学生一同、深く感謝の意を示し、この場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

日本学生オリエンテーリング連盟
幹事長 奥田 雄彦



インカレロング2007に参加された皆様、大変おつかれさまでした。雨の中で行われた競技は参加者の皆様には厳しい環境となりました。フィニッシュレーンに駆け込んでくる選手たちの走りは、気迫に溢れていて、私にはどの選手も輝いて見えました。学生日本一を決める大会。それがインカレです。各地区でオリエンテーリング活動をしている皆さんが目標とし、切磋琢磨し、力試しの場となる競技会です。その価値は参加される学生ひとりひとりが自分の中に作り出すものです。10人いれば10通りの価値があるでしょう。実行委員会はその舞台を用意したに過ぎません。その実行委員もボランティアです。実行委員の皆さん、おつかれさまでした。ありがとうございました。皆様の情熱がインカレロング2007の舞台を支えてくれました。

実行委員長として今回のインカレロングで心がけたのは、以下の2点でした。

(1) インカレの継続

(2) 日光地区でのオリエンテーリング環境の継続

(1) インカレの継続

インカレが価値ある競技会として認められるのは、地図・コースにおいて当代最高水準を保ち続けているからです。この価値観が今のインカレの生命線と言っていでしょう。ところがオリエンテーリングのロング競技に必要な面積を確保できるトレイン（場所）を地図化するにはかなりのコストが必要です。このことからインカレロング大会は単独会計での開催は不可能となっています。どこかと会計面で協力しなくてはなりません。今回は栃木県協会・ジェネシスマッピング社に地図化費用をお任せして、その地図化事業の一環としてイベント開催を行いました。次回のインカレロング大会もまた協力団体といっしょに開催する予定です。当代最高水準競技会の看板を降ろさないように、地図品質を保ちながら、なんとかこれからもインカレロング大会を継続してゆきたいと思っております。それはなによりも学生皆さんが全身全霊を傾けて挑戦できる舞台であり続けるために。それがオリエンテーリング全体の発展に寄与すると思えるからです。

(2) 日光地区でのオリエンテーリング環境の継続

過去に何度もインカレが開催されてきた日光地区で今回のインカレも開催されました。しかしながら日光地区を取り巻く環境は激変しています。そんな中、なるべく地元に対応した競技会となるようにと考えて、今回のイベントに望みました。細かい内容をここに書くのと長くなるので書きませんが、様々な価値観がある中で、地元の価値観を最大限重視したプランを立てたと思っています。ただ大会時にすべて実践できたかという点では多少の心残りもあります。

今まで日本学連は日光地区に大変お世話になってきました。そして、今後も日光地区で継続的にオリエンテーリングを行いたいですし、日光地区の皆様と「共生」してゆきたいと考えています。このために、今回は無理をせず、あらゆることを判断してゆく上で「共生・継続」を基準に進めてきました。今後、日光地区のトレインを利用したインカレ・競技会・練習会などが

行われると思いますが、「共生・継続」を忘れずに末永く日光地区とお付き合いしていただきたいと思っております。

最後に、地元日光の皆様、会場となった「日光だいや川公園」の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

また次回の競技会の際にはよろしく願います。

2006年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
ロング・ディスタンス競技部門実行委員長 木村 佳司

日本学生オリエンテーリング選手権大会スタートリスト

ME (男子選手権)

9:58	001	景山 健	早稲田大学	4
10:00	002	舎利弗 祐介	金沢大学	4
10:02	003	入谷 健元	京都大学	4
10:04	004	村上一輝	東京工業大学	4
10:06	005	石黒 文康	京都大学	3
10:08	006	栗城 吾央	岩手県立大学	4
10:10	007	崎田 孝文	名古屋大学	3
10:12	008	角森 哲博	岩手大学	4
10:14	009	三戸部 佑太	北海道大学	3
10:16	010	小見山 斉彰	千葉大学	3
10:18	011	村上 巧	東京工業大学	4
10:20	012	林 城仁	東京大学	3
10:22	013	佐藤 一平	立命館大学	2
10:24	014	谷口 彰登	千葉大学	3
10:26	015	山本 純一	早稲田大学	4
10:28	016	南部 三王	名古屋大学	3
10:30	017	青山 弘毅	筑波大学	4
10:32	018	日浅 巧	大阪大学	3
10:34	019	谷川 友太	名古屋大学	2
10:36	020	大橋 悠輔	東北大学	2
10:38	021	早瀬 悠	茨城大学	4
10:40	022	高田 弘樹	東北大学	3
10:42	023	手塚 宙之	慶應義塾大学	4
10:44	024	前田 肇	東京大学	4
10:46	025	熊澤 貴弘	慶應義塾大学	3
10:48	026	仲田 貴幸	関西大学	4
10:50	027	中 清行	神戸大学	4
10:52	028	勝田 弘	東北大学	3
10:54	029	川名 聡	横浜国立大学	4
10:56	030	柏村 育郎	東北大学	4
10:58	031	木村 隆二	新潟大学	3
11:00	032	★ 川添 智由	筑波大学	4
11:02	033	高橋 良平	京都大学	3
11:04	034	杉山 尚徳	東北大学	2
11:06	035	藤森 祐耶	静岡大学	4
11:08	036	林 真一	名古屋大学	2
11:10	037	★ 西村 徳真	京都大学	4
11:12	038	佐々木 陽祐	早稲田大学	2

11:14	039	日下 雅広	東北大学	3
11:16	040	中山 史野	東京大学	3
11:18	041	千保 翼	金沢大学	3
11:20	042	★ 海老 成直	中央大学	4
11:22	043	久米 航	東北大学	3
11:24	044	杉本 知駿	立命館大学	3
11:26	045	太田 貴大	東北大学	3
11:28	046	下堂 文寛	京都橋大学	3
11:30	047	★ 千々岩 瞳	東北大学	3
11:32	048	林 泰斗	東北大学	2
11:34	049	片岡 裕太郎	名古屋大学	4
11:36	050	神山 康	早稲田大学	4
11:38	051	稲垣 孝宣	京都大学	4
11:40	052	★ 小山 温史	東京工業大学	4
11:42	053	吉田 祐輔	北海道大学	3
11:44	054	梅本 匠	京都橋大学	3
11:46	055	柴森 貴久	京都大学	2
11:48	056	小林 知彦	名古屋大学	3
11:50	057	★ 茂木 堯彦	東京大学	4
11:52	058	佐々木 崇	新潟大学	4
11:54	059	上野 光	東北大学	4
11:56	060	神谷 泰介	筑波大学	2
11:58	061	寺村 大	名古屋大学	3
12:00	062	★ 長縄 知晃	東北大学	4

★はシード選手

WE (女子選手権)

10:12	063	水野利枝子	椋山女学園大学	4
10:15	064	笠原綾	日本女子大学	4
10:18	065	仲 真子	金沢大学	4
10:21	066	高野 絵理子	相模女子大学	3
10:24	067	豊田 安由美	筑波大学	4
10:27	068	内田 有里恵	相模女子大学	3
10:30	069	新妻 道	津田塾大学	3
10:33	070	市川 陽子	千葉大学	4
10:36	071	堀 文音	奈良女子大学	2
10:39	072	鈴木 聡子	東北大学	2
10:42	073	伊藤 美佳	金沢大学	4
10:45	074	小野智	宮城学院女子大学	3
10:48	075	高橋 摩帆	岩手大学	4
10:51	076	永田 有佳里	相模女子大学	2
10:54	077	後藤 未妃	宮城学院女子大学	2
10:57	078	江幡 禎子	東北大学	2
11:00	079	千田 茉莉奈	宮城学院女子大学	2
11:03	080	細川 彩	奈良女子大学	3
11:06	081	★ 稲葉 茜	筑波大学	4
11:09	082	根本 真弓	岩手大学	2
11:12	083	田川 雅美	京都女子大学	3
11:15	084	★ 関谷 麻里絵	京都大学	3
11:18	085	疋田 はるか	椋山女学園大学	3
11:21	086	石蔵 友紀子	お茶の水女子大学	3
11:24	087	★ 松永 真澄	日本女子大学	3
11:27	088	藪田 明野	東京女子大学	4
11:30	089	高野 美春	十文字学園女子大学	1
11:33	090	★ 阿部 ゆかり	東北大学	3
11:36	091	白形 由貴	筑波大学	3
11:39	092	高島 さゆり	宮城学院女子大学	2
11:42	093	★ 千葉 妙	筑波大学	4
11:45	094	山下 幸恵	新潟大学	4
11:48	095	青山 由希菜	椋山女学園大学	3
11:51	096	★ 井手 恵理子	日本女子大学	4
11:54	097	畑岡 祥子	茨城大学	3
11:57	098	竹之内 香	宮城学院女子大学	2
12:00	099	★ 臼倉 由起	岩手大学	4

★はシード選手

選手権クラス成績表

ME - 11.1km ↑ 400m

順位	氏名	時間	学校名	学年
1	日下雅広	1:25:06	東北	3
2	西村徳真	1:25:30	京都	4
3	茂木堯彦	1:26:51	東京	4
4	長縄知晃	1:27:04	東北	4
5	小山温史	1:27:18	東京工業	4
6	林泰斗	1:28:15	東北	4
7	海老成直	1:31:14	中央	4
8	千々岩瞳	1:31:22	東北	3
9	太田貴大	1:31:30	東北	3
10	久米航	1:31:33	東北	3
11	入谷健元	1:32:03	京都	4
12	神谷泰介	1:32:43	筑波	2
13	大橋悠輔	1:33:00	東北	2
14	栗城吾央	1:33:16	岩手県立	4
15	寺村大	1:34:14	名古屋	3
16	山本純一	1:35:31	早稲田	4
17	杉山尚徳	1:35:49	東北	4
18	早瀬悠	1:35:54	茨城	4
19	谷口彰登	1:35:58	千葉	3
20	高田弘樹	1:36:37	東北	3
21	木村隆二	1:36:43	新潟	3
22	勝田弘	1:37:19	東北	3
23	村上巧	1:37:42	東京工業	4
24	青山弘毅	1:38:39	筑波	4
25	前田肇	1:39:03	東京	4
26	佐々木崇	1:39:29	新潟	4
27	林城仁	1:39:51	東京	3
28	神山康	1:40:42	早稲田	4
29	舎利弗祐介	1:41:42	金沢	4
30	小見山斉彰	1:41:46	千葉	3
31	柏村育郎	1:43:15	東北	4
32	吉田祐輔	1:44:23	北海道	3
33	川添智由	1:44:24	筑波	4
34	日浅巧	1:44:52	大阪	3
35	景山健	1:45:43	早稲田	4
36	南部三王	1:46:28	名古屋	3
37	三戸部佑太	1:47:12	北海道	3
38	片岡裕太郎	1:47:22	名古屋	2
39	崎田孝文	1:47:38	名古屋	3

WE - 7.79km ↑ 210m

順位	氏名	時間	学校名	学年
1	関谷麻里絵	1:02:46	京都	3
2	千葉妙	1:12:06	筑波	4
3	稲葉茜	1:14:14	筑波	4
4	井手恵理子	1:14:33	日本女子	4
5	笠原綾	1:14:47	日本女子	4
6	松永真澄	1:17:13	日本女子	3
7	高野美春	1:17:36	十文字学園女子	1
8	永田有佳里	1:20:48	相模女子	2
9	阿部ゆかり	1:22:28	東北	3
10	白倉由起	1:23:53	岩手	4
11	石蔵友紀子	1:25:32	お茶の水女子	3
12	白形由貴	1:30:03	筑波	3
13	根本真弓	1:30:30	岩手	2
14	田川雅美	1:31:14	京都女子	3
15	藪田明野	1:32:15	東京女子	4
16	青山由希菜	1:32:55	椋山女学園	3
17	水野利枝子	1:33:49	椋山女学園	4
18	新妻道	1:34:56	津田塾	3
19	鈴木聡子	1:35:18	東北	2
20	伊藤美佳	1:37:38	金沢	4
21	畑岡祥子	1:38:35	茨城	3
22	豊田安由美	1:41:05	筑波	4
23	細川彩	1:41:19	奈良女子	3
24	疋田はるか	1:43:48	椋山女学園	3
25	後藤未妃	1:45:58	宮城学院女子	2
26	山下幸恵	1:46:29	新潟	4
27	仲真子	1:55:25	金沢	4
28	堀文音	1:59:06	奈良女子	2
29	高野絵理子	2:04:01	相模女子	3
30	高島さゆり	2:05:12	宮城学院女子	2
31	小野智	2:06:46	宮城学院女子	3
32	江幡禎子	2:11:53	東北	2
33	竹之内香	2:13:48	宮城学院女子	2
34	内田有里恵	2:17:22	相模女子	3
35	市川陽子	2:25:53	千葉	4
	千田茉莉奈	3:05:45	宮城学院女子	2
	高橋摩帆	DISQ	岩手	4

優勝者の言葉

女子選手権者 関谷麻里絵

目標であり、自分との約束であった優勝という結果を目の当たりにしたとき、素直な嬉しさと感謝の気持ちで胸がいっぱいになりました。この優勝は私一人の力で取れたものではない、共に高めあう仲間、応援してくれる皆、目標にし、競い合ってきたライバルがいたからこそ。その全ての人たち、そしてインカレというすばらしい舞台を準備して下さった運営者の皆様にまずお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございました。

本番のレースで意識したことは、本当に基本的なことだけでした。視野を広く、基本動作を確実に。人に会ったら必ず地図を読むこと。前日にペナっただけに十分すぎるほど番号確認をしていたというのは内緒の話ですが、とにかく、今回のインカレは何も気負うことなく、自分をいっぱいに出して楽しんで走りきることが出来ました。準備も十分にすることが出来、あとは精一杯走るだけ、という肉体的にも精神的にも非常に良い状態で本番を迎えることが出来たと思っています。

ミドルで優勝したからというプレッシャーなどありませんでした。私にとってこのインカレは去年の悔しさからの続きにあるものだったから。ゴールして、去年追いつけなかった人の姿を見たときには、ああこれが1年間の私のインカレへの思いだったんだ、この日のために頑張ってきたのだと悟り、本当に涙がこみ上げるようでした。当日のレース、会場の様子、ライバルたちの表情、いろいろな風景が胸に焼き付いています。それだけこのインカレは私にとって濃く、とても楽しいものでした。

今回は私が取ったけれど、まだまだ私には先がある、この先、このたった一つの結果を目指して、また全国のライバルたちと共に走り出すスタートを切ったのだと思うと、今から本当にわくわくします。春にはミドルとリレーが待っています。私はもっともっと高いところを目指していくつもりです。私は、負けません。今年は攻めて、自分に挑戦していくと思っています。全国のライバルたちとまた次の舞台上で競えるのを楽しみにしています。

それでは、もう一度、夢のような二日間をありがとうございました。

男子選手権者 日下雅広

ロングエリート。

それはオリエンテーリング部に入部して間もない頃からの憧れでした。さらにそこで入賞、優勝ともなれば、夢のまた夢。昨年の駒ヶ根インカレでは北東学連の最後の枠に滑り込み、初めてエリートとして出走しましたが、トップスタートで緊張していたのでしょうか、勢いよく飛び出し過ぎて現在地を見失い、13分の大ミスをしてしまって悔しい思いをしたのを覚えています。

それから1年、大会参加を重ねるうちに自分の持ち味というのが分かってきました。それは、「最後まで粘れること」。それまでは「ここでとばしてタイムを縮めよう」というナビゲーションがおろそかになり、大きなミスをしてしまうことがあったのですが、「とばさなくてもいいから、最後まで粘れば勝てる」と思いこませるようになってからは、大きなミスが減り、また多少のミスをして慌てることがなくなり、安定感が出るようになりました。それは自信になりました。

また、東北大の部としての雰囲気も「ロング頑張るぞ」という気持ちにしてくれました。昨年を超える競争の激しさ、1年生のやる気の高さと、切磋琢磨するのに非常にいい環境でした。東北大会の地図調や試走で積み上げた体力に、10月のトレーニングがうまくはまり、風邪をひいた以外最高の状態で臨むことができました。

ロング当日は雨が降ったり止んだりの天気で、眼鏡をかけている自分にとって不利な気がしましたが、それは逆に負けたくないという気持ちを生みました。レース中はルートに迷いが生じたり、ナビゲーションが未熟だったりして無駄な動きがありましたが、それも自分だと思って我慢して1つ1つコントロールを回っていきました。そしてラスポへ向かう長い道走り、東北大の声援が聞こえてきました。苦しくて、でも嬉しくて、フィニッシュ前なのに泣きそうだったのを覚えています。そして決まった優勝。表彰式では、雨の手荒い祝福を受けました。少し残念でした。

現在は奈良インカレに向けて、それなりにトレーニングをしています。3年の僕にはあと3回インカレが残っているわけですが、次回の奈良インカレ、最後のインカレだと思って全力で臨みたいと思います。東北大初の団体戦2連覇を目指して。

最後になりましたが、思い出に残るインカレを開いて下さった運営者の方々にお礼を述べて、優勝者コメントを閉めたいと思います。ありがとうございました。

学生併設 / 一般併設クラス成績表

MUL 1 - 6.2km ↑ 310m

1	大橋 洋介	0:54:44	慶應義塾 4
2	宗形 俊	0:59:20	新潟 3
3	足立 恭兵	1:02:06	慶應義塾 4
4	小林正朋	1:02:48	名古屋 3
5	梶谷 周平	1:03:06	東北 2
6	古谷 嵩	1:04:55	東京工業 2
7	八重樫 集	1:06:00	東北 2
8	男庭 和則	1:06:13	茨城 4
9	藤田寛祐	1:07:09	早稲田 3
10	吉田 知峻	1:07:30	東京 4
11	飯塚 祥大	1:08:03	新潟 4
12	山川雅也	1:11:02	名古屋 2
13	田村 貴文	1:11:26	岩手 3
14	山下博徳	1:11:29	一橋 2
15	今 将晃	1:11:48	岩手県立 2
16	中村 亮太	1:12:10	茨城 3
17	久保山 裕己	1:12:18	東京工業 2
18	磯部真也	1:13:33	北海道 2
19	清水 善郎	1:13:46	東北 3
20	緑川 拓也	1:13:53	新潟 4
21	原田 怜	1:14:28	静岡 3
22	木下新一	1:14:36	早稲田 1
23	永山 育男	1:14:43	東北 3
24	長峯 大樹	1:15:27	東北 2
25	星野 有祐	1:15:36	新潟 3
26	高松 駿	1:16:50	金沢 3
27	斎田 篤	1:17:06	東京工業 3
28	宮田 雅人	1:17:34	茨城 2
29	林広明	1:18:03	京都 2
30	臼井 佑真	1:18:28	静岡 4
31	稲田 元樹	1:20:03	立命館 4
32	大牧 勇人	1:20:53	名古屋 2
33	斎藤 弘	1:20:58	新潟 3
34	杢木 知宏	1:21:20	東京 3
35	山室 行大	1:21:31	東京 2
36	工藤 慎也	1:22:18	東北 2
37	新家佳樹	1:23:29	京都 2
38	斎藤 優作	1:23:38	新潟 3
39	渡邊 悠貴	1:25:06	慶應義塾 3
40	大浦宏記	1:25:29	京都 3
41	大類 健介	1:27:25	静岡 2
42	千田 浩介	1:29:49	東京工業 3
43	伊藤 達也	1:31:06	茨城 2
44	小澤隆嘉	1:31:22	名古屋 2
45	渡部 敏喜	1:32:31	新潟 4
46	大竹彰	1:32:33	早稲田 3
47	石田 英己	1:33:49	新潟 2
48	並木 政憲	1:39:20	筑波 3
49	木内 俊太郎	1:40:13	福島 4
50	久保 貴大	1:40:38	新潟 2
51	庄子 靖聡	1:40:41	福島 2
52	石橋 聡士	1:44:26	新潟 3
53	島 礼央	1:45:09	岩手 2
54	吉田 秀人	1:45:19	茨城 2
55	渡会 真一	1:49:51	静岡 2
56	寺川 拓	1:54:32	静岡 3
57	櫻井 文彦	1:57:10	東北 2

MUL 2 - 6.3km ↑ 290m

1	古澤 誠実朗	0:58:23	千葉 2
2	津島 直樹	1:00:02	岩手 2
3	土屋 裕輝	1:02:55	新潟 3
4	五十嵐 雅史	1:03:07	慶應義塾 4
5	下嶋 健太	1:04:37	筑波 2
6	石塚 脩之	1:05:22	東北 3
7	大杉 祥二	1:05:45	筑波 4
8	田中 裕也	1:08:01	東京 2
9	水木啓介	1:08:31	早稲田 2
10	野々垣 亘	1:10:16	一橋 2
11	川村 涉	1:10:22	東京理科 2
11	野田 徹	1:10:22	東北 3
13	武藤 貴昭	1:11:16	東京工業 3
14	堀田 秀聡	1:11:26	千葉 4
15	比嘉 友紀	1:12:03	東京工業 4
16	小野原 翔	1:12:30	立命館 4
17	岡田 健太	1:12:46	東北 2
18	青木 大輔	1:12:56	静岡 4
19	藤島陽平	1:15:47	北海道 2
20	堀越 裕之	1:16:45	東京工業 2
21	南部壮志	1:16:50	神戸 4
22	中尾 吉男	1:16:54	東京 4
23	植田悠太郎	1:17:18	一橋 4
24	伊藤 将宏	1:17:53	東京工業 3
25	定永 悠佑	1:17:54	静岡 3
26	近藤 宏太	1:17:55	東京工業 3
27	岩瀬祐介	1:17:56	早稲田 4
28	丹羽 将隆	1:17:59	静岡 4
29	河上 重範	1:18:06	新潟 2
30	福田 雄史	1:18:09	静岡 2
31	鶴田靖行	1:19:24	早稲田 2
32	佐藤 俊輔	1:20:46	東京工業 3
33	早川 崇	1:21:42	静岡 3
34	玉田芳崇	1:22:02	名古屋 2
35	伊藤珠悟	1:22:12	北海道 2
36	盛合 宏太	1:23:00	岩手 3
37	高橋 大輔	1:23:40	岩手 4
38	奥田雄彦	1:24:17	早稲田 4
39	御崎 智之	1:24:22	東京工業 2
40	湯田 俊輔	1:25:27	東北 2
41	諸江 佳樹	1:26:13	東京 4
42	尾崎亮輔	1:29:41	京都 3
43	川瀬智美	1:30:18	名古屋 2
44	田仲 圭	1:33:07	新潟 2
45	新谷俊幸	1:33:21	名古屋 2
46	佐藤 清吾	1:33:23	茨城 2
47	西久保 史明	1:34:51	東京 4
48	岩崎 慶士	1:35:48	東京農工 3
49	島田 祐司	1:37:02	東京工業 3

コースプランナー解説

和泉 祐

今回コースセットにおいて、最大の障害となったのは、ゴール地区(大会会場)とメイントレインとがあまりにも離れ過ぎている点である。しかもその間には鉄道が2本、国道が1本存在し、必然的に渡る箇所が限定されてしまうことになり、更には踏み切りを渡らざるを得ないという無理のある条件の下でのコースセットとなった。結果的に、踏み切りの問題はダブルマーケットルートという、日本のオリエンテーリング史上前例の無い選択を取ることとなった。

残る問題は道走りの長さである。後半が公園マップであることと男子優勝設定時間80分ということを考えると、前半のトレインでいかに「ロングらしい」タフさとナビゲーション能力を問う課題を設定できるかという点で苦慮することとなった。

ME

△→1

----- 茂木 4'37" スタートから正面に見える鞍部を越えていくか南に巻いて行くか。最後の、アタックの地形の緩さに注意する。入賞者のルートはいずれも前者のルート。もう少し南側にポストを置けばルートがもう少し分かれたかもしれない。ラップタイムは、殆ど差は無く5分弱。7位の海老はここで5分弱ものミスをしてしまい、この差が入賞を逃す結果となってしまった。

----- 西村 5'02" → 2
----- 日下 5'15" ポストの手前のピークを北と南のどちらの道で避けるかルートが分かれた。北ルートは最後に川を渡るリスクがあり、南ルートは道

からの正確なナビゲーションが要求される。入賞者の中で北のルートを利用したのは小山のみ。C藪のかかった尾根をピークまで登る大胆なルートを通ったのは林。しかし、どのルートを選んでもタイムに差は見られなかったようだ。茂木は西の沢にアタックしてしまい1分程度のミス。

2→4

2→3は道走りの後の微地形へのアタック。3→4は5への繋ぎの直進ショートレッグ。2からの脱出と3へのアタックが正確に出来ているかどうか。脱出のルートミスとアタックミスで林はトップラップ+40秒。長縄はショートカットしようとしたのかミスルートで1分半程のミス。海老はここでも4分半程の大きいミスをしてしまう。3→4は全員、特に差の無いタイム。

4→5

途中のD藪を東西どちらにかわすか、またアタックにおいて沢をつめて尾根上から行うかアップを避けて手前からコンタリングで行くかで、それぞれルートが分かれた。西村・茂木・小山は西ルートを、日下・長縄・林は東ルートを選択。ラップを見る限りでは西ルートを選択した3人の方が正解であったようだ。アタックでは日下・西村・小山が尾根上からのルートを、茂木・長縄・林はコンタリングのルートを選択。結果は西ルート・コンタリングを選んだ茂木がトップラップ。林は4からの脱出ミスと、立入禁止エリア手前まで行って引き返した為、計2分半のミス。

5→6

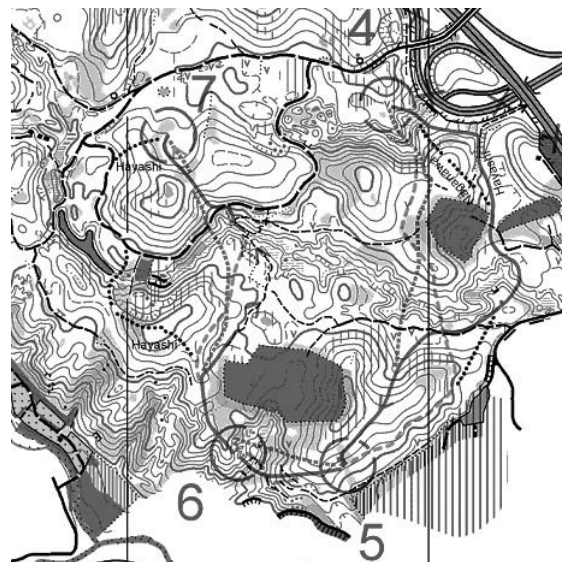
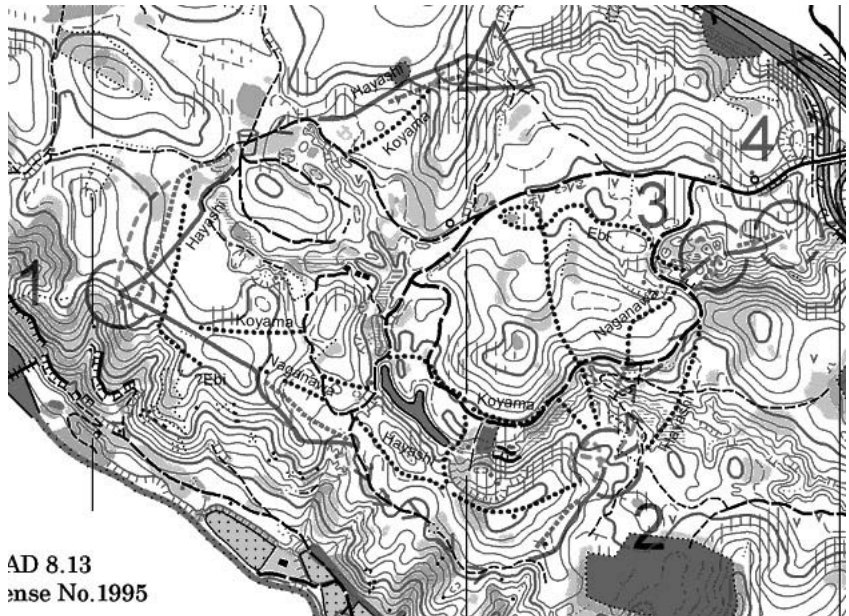
B藪で覆われた下り、登り返して微地形へアタック。しっかりとコンパスを振って沢の中の特徴物でリロケートしてアタックすれば問題の無いショートレッグ。入賞者6人ほぼ差の無いタイム。

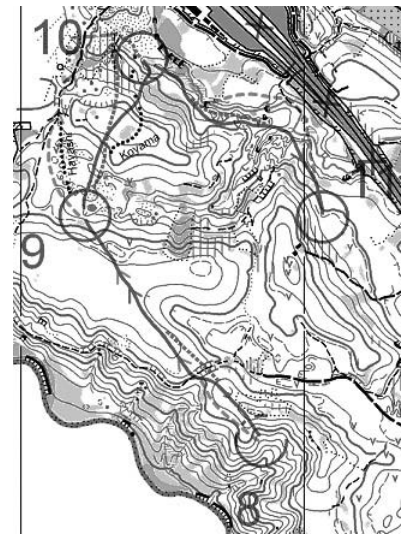
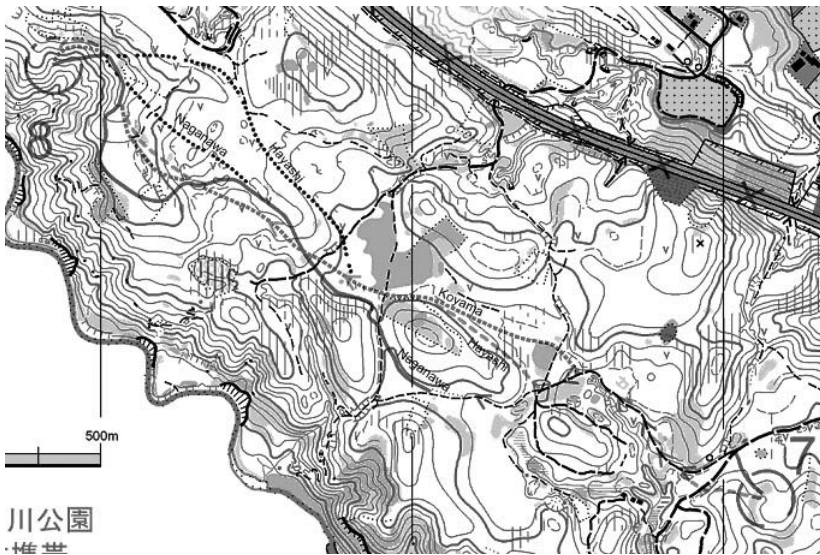
6→7

----- 茂木 5'35" 道を進んで鞍部を越えてアタックするか、足にまかせて池の西の道を回って尾根を越えてアタックするか。入賞者の中で西の大回りルートを選択する選手はいなかったようだが、林のみ池の東の淵を抜けて道からアタックするルートを選んでいる。東回りの選手も特に道を使うことなくなるべく最短のルートを選択している。2番ポストのアタックである程度記憶に残っていたので自信を持って行けたのであろうと推測される。結果としては一人独自のルートを選んだ林がやや遅れるものの、他の選手は大差無いタイム。

7→8

----- 茂木 10'18" ロングレッグ。平坦かつ通行可能性が高いエリアでスピードを落とさずなるべく最短距離で特徴物を拾って行けるか。給水所までは道なりに。西村のみ給水所を通らずにショートカット。給水所からは、正面の尾根を南北どちらかで巻く選択。西村・茂木・小山・林は北ルートを、日下・長縄は南ルートを選択。次のアタックポイントのある尾根に取り付くまでの平坦な区間。なるべく真っ直ぐ最短で行ければベストだが、日下のルートは早めに尾根に乗ってしまう選択。多少大回りになってしまった。林は北側に大きく外れてしまったようだ(他の5人より+2分ミス)。





川公園
・雄世

8 → 9

現在地の把握しにくい平坦な尾根から方向を維持してアタック。途中のピークがちゃんと確認出来れば左程難しくないレッグ。アタックでミスをした長縄と脱出でミスをした小山が、他の4人より1分程度遅れる。

9 → 10

正面にある尾根を真っ直ぐ切るか西の道を巻いて行くか。道からのアタックで通過する嫌らしい縦ハッチのかかった凹凸地を考慮すると真っ直ぐが多少早いか。日下・西村・小山は真っ直ぐを選択したが日下・西村はアタックでややミスをしてしまったようだ。

10 → 11

川沿いの走りやすい地形を選んで川の分岐からアタック。茂木以外の5人は大体同じルート。川の南側を嫌った茂木は川を2回切ったせいか他の5人よりやや遅いラップとなった。

11 → 12

尾根を切って沢沿いに進み不明瞭な小径から更に尾根を越えてアタック。集中力が途切れてきたのか各ルートともふらつきが見られる。茂木はこのレッグで日下・西村に1分の差を付けトップに立つ。小山はルートを見る限り、間違えて隣の8番ポストに向かってしまったように推測される(+1分半のミス)。

12 → 13

コンタリングか道まで回るかの2択のショートレッグ。ラップタイムを見る限りでは道を回った方がやや早かったようだ。

13 → 14

不明瞭な小径へ行くのに、尾根上を辿るかアップを避けて鞍部を通るか、ややルートが分かれた。小山のみ西の方に流れてしまい1分半程のミス。

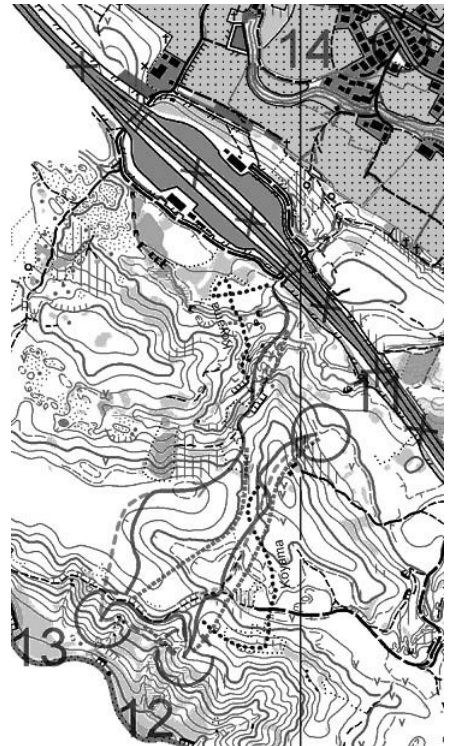
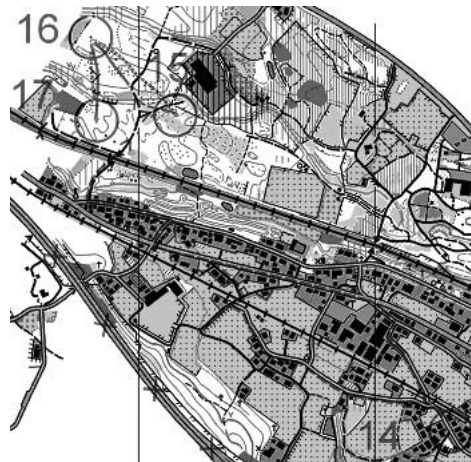
14 → 17

マークトルート。山から下りて市街地を道走り、そして細かくショートレッグ。道走りの後なのでスピードをどこまでコントロール出来るか。ここで茂木が痛恨のポスト飛ばしをしてしまう。14から16、17を通過した後、15番から取り直すことになった(+3分のミス)。ここで入れ替わった順位は結局最後まで入れ替わることは無かった。

17 → ◎

特徴物の多い公園部分を15,000分の1の地図でしっかり読み取って走りきる。入賞者6人の中では小山が追い上げを見せたが順位を上げることは出来なかった。

あいにくの天候で最悪のテレイン状況の中、トップラップは一つも無いがミスを最小限に抑えた日下が85分06秒のタイムで優勝した。逆に最もトップラップを出した海老は2回の大きなミスで入賞圏外へと落ちてしまったことが悔やまれる。(次ページの地図参照)



-----	茂木	4'25
-----	西村	5'03
-----	日下	5'06
-----	林	4'19
-----	長縄	4'25
-----	小山	5'39

WE

△→1

道を乗り継いで、道の曲がり（鞍部）から沢に入り、西側の補助コンタの沢→ランク5の道を越えてそのままの流れで尾根にアタックがベストルート。千葉・松永・笠原は途中のショートカット出来る部分を遠回りに道走りしているのが非常にもったいない。道から

のアタックでは千葉・笠原以外は東の補助コンタの沢に流れてしまって、ポスト手前で1本余分に沢を切ってしまっている。この時点で関谷はラップで2位の井手に30秒、3位以下に1分もの差をつけている。シード選手の白倉（岩手4）は5分以上のミスをして大きく出遅れる。

1→2

ショートレグ。1→ピーク→2、と真っ直ぐコンパスを振って直進。松永は沢をつめて道を辿り、大分大回りをしている。ここでのラップタイムも関谷が頭一つ上に出ている。

2→3

道を乗り継いで、道の東側にある補助コンタの尾根を確認して微地形へアタック。道の乗り換えと最後のアタックだけ気を付ければいいレグであるが、最後のアタックでミスをした選手が多かったようだ。稲葉の脱出ミスは4番ポストに向かってしまったのが原因であるようだ。道の乗り継ぎもアタックも無難にこなした井手がトップラップ。

3→4

ロングレグ。入賞者の中でも大きくルートが分かれた。基本的に給水所を通らず、道を乗り継いでいくルートが早い。関谷のルートのように真っ直ぐに尾根を切って平らなA藪の林を最短で行くのも大差は無い。給水所を通った選手は、男子と同じく正面の尾根を南北どちらかで巻くかでルートが分かれた。尾根を巻いてからは基本的に真っ直ぐに尾根に乗って途中のピークなどの特徴物を拾ってアタックするのがベスト。1位ラップの関谷はアタックでやや東に逸れるもののリロケートしてほぼベストルート。井手はアタックで大きくミス（+7分弱）をしてしまい、優勝争いから大きく後退。松永のルートは沢底の走りにくさ（Bハッチの数）を考えるとあまり良いルートとは言えない。ラップタイムを見ると、ここで完全に関谷が抜け出してしまったことが分かる。シード選手の阿部（東北3）はここで10分以上の致命的なミスをしてしまい、入賞圏外へと落ちてしまった。

4→5

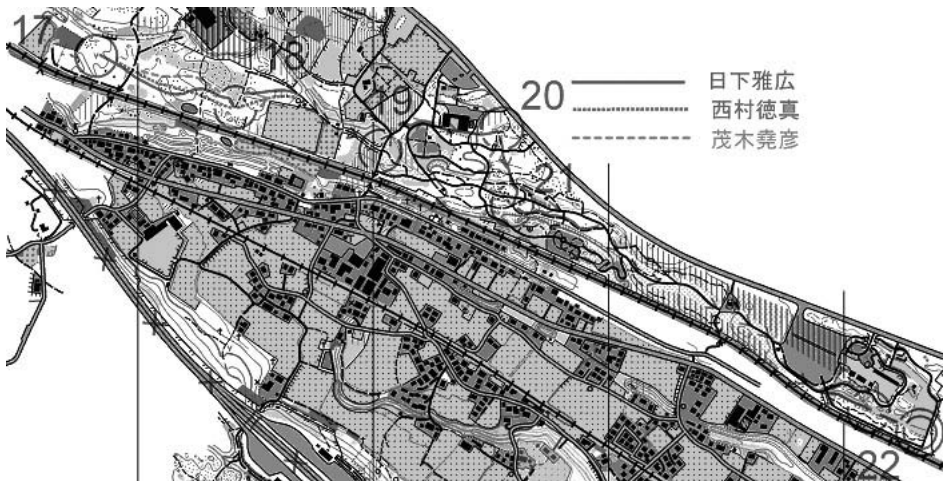
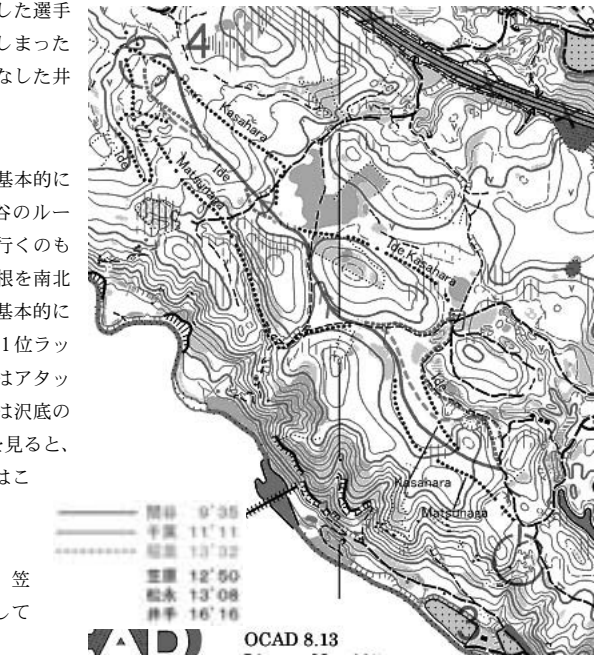
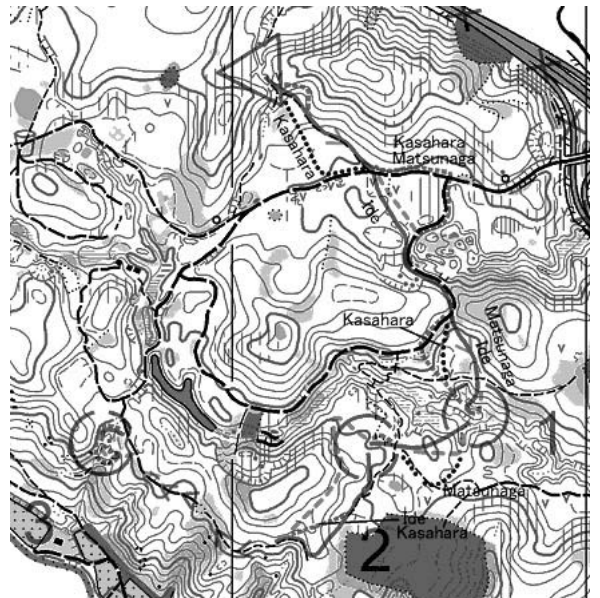
真っ直ぐ尾根を登って尾根辿りをするか、アップを嫌って北側の道を回っていくか。笠原のみ北側の道回りルートを選択（やや遅く、+1分程度）、松永はアタックでミスして+1分半。

5→6

男子の12→13と共通レグ。女子の入賞者は全員道回りルートを選択。

6→7

男子の8→9と脱出するポストは違うが基本的に同じ。現在地の把握しにくい平坦な尾根から方向を維持してアタック。途中のピークがちゃんと確認出来れば左程難しくないレグ。井手は東に流れて1分強のミス。



7 → 8

関谷 3' 34
 千葉 4' 24
 稲葉 3' 29
 笠原 3' 47
 松永 4' 28
 井手 4' 44

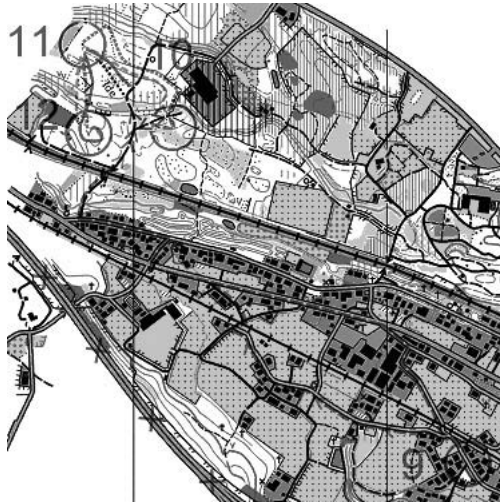
さっさと尾根に乗ってしまい、そのまま尾根を辿って上からアタックするルート（松永）と、レグ線上にある藪を上にかわしてそのままコンタリングしてランク6の道を使うルート（千葉・井手）と、その中間のコンタリング気味に行つて最終的に尾根上からアタック（関谷・稲葉・笠原）とに分かれた。ラップから見ると中間ルートを通った3人が早かったようだ。

8 → 9

山からの脱出。東に延びる尾根を辿って川を切って道に乗るルートが主流。松永のみ、さっさと川を渡って真っ直ぐ行くルートを選択。川はやや深いが、真っ直ぐの方が若干早いように思われる。千葉は東に流されてしまい3分弱のミス。

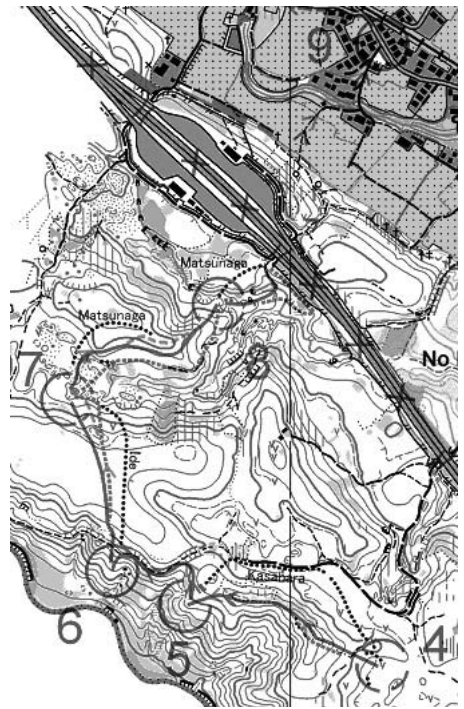
9 → 12

マークトルート。男子と共通。ここで千葉は踏切遮断のため第2マークトルートを取るようになった。山から下りて市街地を道走り、そして細かくショートレグ。11 → 12で関谷・松永がそれぞれ2分弱・3分半のアタックミス。道走りの後のショートレグなので集中力を切らさずこなしたいところ。



13 → ①

男子と共通。特徴物の多い公園部分を15,000分の1の地図でしっかり読み取って走りきる。15, 16でやや遅れをとった笠原はここで3位から5位に落ち、千葉・井手はそれぞれ順位を上げる。また、松永は最後に意地を見せ、高野（十文字1）を抜いて入賞圏内へ。高野は惜しくも新人での入賞を逃した。



結果としては関谷が2位の千葉に10分近く差をつけて圧勝。2位以下の選手はいずれもどこかのレグで大きなミスをしてしまい、タイムを落としていった。優勝設定時間は65分だが、あのコンディションの中、62分のタイムを出しての優勝は脱帽。独走を許してしまった他の選手は、春のインカレでの奮起を期待する。

一般クラス

スタートはエリートクラスと同じ場所で、ゴールは磐裂神社の下のオープンということで、それほど無理の無いコースは組めた。ただ、十分な試走が出来なかったこともあり、ウィングタイムのばらつきを見る限りではもっと良いコースが組めたのではないと思われる。特にMUF、WUFクラスはもう少し難易度を上げて良かったのではないと思う（ただWUFで26分のウィングタイムが出た同コースのWUBで52分のウィングタイムが出ているので何とも言えない）。

総括

悪天候の中、MEは大体予想通りの、またWEは予想以上のタイムが出た。ただ、地図作成の遅れから、満足のいく試走が出来ないままのコースを提供してしまったことをお詫び申し上げます。私は一応コースプランナーという立場ではありましたが、実際のところやったことは、つぎはぎだけのコースを、各役員から意見をもらって纏めただけであった気がします（最後まで地図が無かったマークトルート以降の部分は、山川氏のコースセットです）。ウィングタイムを考慮して無理に伸ばした部分、次のレグへの繋ぎを考えて入れた単調なショートレグ、難易度の低いロングレグ等、挙げれば切りがありません。

ネガティブなことばかり書いていますが、とりえず「日光」らしいコースであったとは思いますが。今後もロングと言う競技の性質上、コースセットに制約のあるテレインを使わざるを得ないことも多々あると思いますが、創意工夫で良いコースは出来ると思います。また、今後こういった機会を与えられた際は、より良いコースを組めるよう努力していきたいと思えます。

最後になりましたが、コースに助言を下された役員の皆様、また限られた機会の中、十分に出来ていない地図でコース試走をして下さった役員の皆様に、この場を借りてお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

役員一覧

◆大会実行委員長
木村佳司

◆競技責任者
山川克則

◆コース設定者
和泉祐

◆運営役員
 荻田育徳・的場洋輔・立川洋・後藤崇・井上博人・山下智之・
 市原孝一・山口能迪・小林隆昭・後藤俊介・高橋雄哉・渡辺裕己・古山泰也・
 真壁啓司・田久保豊・山口拓也・児玉 拓・久保井輝政・木村治雄・中山勝・
 小山太朗・高橋 厚・田中博・高木麻衣・橋本陽子・花木睦子・米谷法子・
 山川順子・田中洋子・上田泰正

◆イベントアドバイザー
岸野義宏、西脇正展

◆裁定委員
黒田幹朗（信州大学卒）、山岸倫也（早稲田大卒）、西脇博子（東京農工大卒）

トレイルO成績表

Aクラス (14点 満点)

総合順位	学生順位	氏名	クラブ・所属名	得点	タイム(sec)
1		大久保 裕介	E S関東C	14	12.0
2	1	茂木 堯彦	東京大学	14	16.0
3	2	西村徳真	京都大学	14	22.0
4	3	高田 弘樹	東北大学	14	26.0
5		藤生 考志	東京OLクラブ	14	31.5
6	4	日下 雅広	東北大学	14	34.5
7		降旗 健	杏友会	14	45.0
8	5	中山 史野	東京大学	14	52.0
9		田中 徹	京葉OLクラブ	13	11.5
10		山崎 貴幸	川越OLC	13	18.0
11	6	磯部真也	北海道大学	13	25.0
12	7	前田 肇	東京大学	13	27.0
13	8	伊藤瑛悟	北海道大学	13	33.5
14		櫻本 信一郎	京葉OLクラブ	13	42.0
15		山口 尚宏	OLCルーバー	13	45.0
16		早野 哲朗	京葉OLクラブ	13	46.0
17		杉本 光正	E S関東C	13	80.0
18	9	小山 温史	東京工業大学	13	85.0
19	10	中尾 吉男	東京大学	13	87.5
20	11	三戸部佑太	北海道大学	13	99.0
21	12	吉田祐輔	北海道大学	13	105.5
22	13	角森 哲博	岩手大学	13	123.5
23	14	八重樫 集	東北大学	12	19.0
24		吉村 年史	京葉OLクラブ	12	22.5
25	15	柴森貴久	京都大学	12	37.0
25	15	若林 宗平	札幌農学校	12	37.0
27		松澤俊行	三河OLC	12	38.5
28		荒井正敏	多摩OL	12	45.0
29	17	栗城 吾央	岩手県立大学	12	46.0
30		高村 卓	上尾OLC	12	74.0
31	18	比嘉 友紀	東京工業大学	12	79.5
32	19	戸田 瑛	東北大学	12	83.0
33		青木 孝道	杏友会	12	86.0
34		鈴木 規弘	多摩OL	12	100.0
35		吉野信	希林の会	12	102.0
36		奥田 健史	京葉OLクラブ	12	111.0
37	20	小林 幹明	東京大学	12	138.0
38		海老沢 正	東京OLクラブ	11	21.0
39	21	田村 貴文	岩手大学	11	75.0
40		町井 稔	多摩OL	11	84.0
41		松橋徳敏	つるまいOLC	11	104.0
42	22	石塚 脩之	東北大学	11	105.0
43		櫻井 悠		11	108.0
44		角岡 明	つるまいOLC	11	110.0
45		熊谷 智之	留寿都OC	11	135.0
46	23	佐々木 崇	新潟大学	11	180.0
47		竹内 誠史	杏友会	10	41.0
48	24	村上 巧	東京工業大学	10	41.5
49	25	吉田 知峻	東京大学	10	45.0
50		福田 雅秀	川越OLC	10	55.0
51		遠藤 豪志	東京OLクラブ	10	77.5
52		村上 一輝	ビニールライター	10	79.0
53	26	太田 貴大	東北大学	10	82.0
54	27	高橋 良寿	岩手県立大学	10	86.0
55		松川 清一		10	89.0
56		足立 辰彦	OLCルーバー	10	98.0
57		遠藤 光歩	東京OLクラブ	10	129.0
58		辻村 修	コンターズ	10	152.0
59		石井 龍男	千葉OLK	10	164.5
60	28	白倉 由起	岩手大学	10	172.0
61	29	矢内 剣	東京大学	10	173.0
62	30	伊藤 将宏	東京工業大学	9	36.0
63	31	鈴木 聡子	東北大学	9	68.0
64	32	御崎 智之	東京工業大学	9	74.0
65		谷垣 宣孝	OLP兵庫	9	79.0
66		阿天坊 裕	港南OLC	9	93.0
67	33	笹木 和美	岩手大学	9	101.0
68	34	江幡 禎子	東北大学	9	135.0
69	35	瀧澤真一	北海道大学	9	136.5
70	36	林広明	京都大学	9	147.0
71	37	高橋 大輔	岩手大学	8	82.0
72	38	尾崎亮輔	京都大学	8	83.5
73	39	松田 和政	東北大学	8	93.0
74	40	太田 康博	東京大学	8	96.0
75	41	西久保 史明	東京大学	8	151.0
76		中原信一	大阪OLC	7	34.5
77	42	盛合 宏太	岩手大学	6	89.0
78	43	今 将晃	岩手県立大学	6	102.0
79	44	高瀬 暁	北海道大学	4	174.5

Nクラス (14点 満点)

総合順位	学生順位	氏名	クラブ・所属名	得点	タイム(sec)
1		大塚 弘樹	入間市 OLC	8	-
1		平嶋 真季	KOLC	8	-
3	1	中村 匠吾	岩手大学	7	-
3	1	石向緑	宮城学院女子大学	7	-
5	3	沢厚太郎	名古屋大学	6	-
5	3	小野智	宮城学院女子大学	6	-
5		志村 公寛	KOLC	6	-
5		足立 恭兵	KOLC	6	-
9	5	武藤 優衣	相模女子大学	5	-
9	5	溪 静華	相模女子大学	5	-
9	5	竹ヶ原 一樹	岩手大学	5	-
9	5	後藤未妃	宮城学院女子大学	5	-
13	9	後藤 義光	岩手大学	4	-
14	10	曲木 昂	岩手大学	2	-
14	10	佐藤 良壮	岩手大学	2	-
14		遠藤 崇志	東京OLクラブ	2	-
17	12	関野 雄人	岩手県立大学	0	-

トレイルOコースプランナー解説

山口 拓也

まずは、今回のインカレに関わったすべての皆さんへ、お疲れ様でした。
ここに来年以降のインカレにつなげるべく、いろいろ書いていこうと思います。

・準備段階

私が今大会のコースプランナーの要請を受けたのは6月2日。トーキョーベイエリアスプリント第2戦の会場だった。11月10日の当日まで5カ月余り。ちょっと聞いただけでは余裕を持って準備できるだろうと思うが、トレインとなる日光だいや川公園の地図を提供していただくことになっているジェネシスマッピングのある関係者の方によると、9月17日のクラブカップまではそちら優先で地図を作ることになるとのことだった。この時点で今大会の準備がギリギリになるのは予想がついた。そこで、6月の段階で現地に2回下見に行き、可能な限り最悪の事態に備えた。コントロール位置のおおまかな選定や課題の構想など、現地において原因なしに行える範囲での作業はそこですべて終了。

それから、今大会で行おうと考えていたことを列挙し、主たる運営者になるであろうメンバーに伝えた。その内容は概ね以下ようになる。

- 事前、事後にアンケートを取り、主たる参加者である学生をメインに、今自分が考えてやろうとしていることが参加者のニーズに合っているか確認をする。
- 正解表と併せてプランナーのコメントも配布する。
 - 時間があれば現地でコース解説を行う。
 - 上位者の解法を報告書に載せて紹介し、解説する。

※例年インカレ(フットO)の報告書にはコースプランナーのコメントがたいてい載るが、トレイルOに関しては私の知る限り見たことがなかった。(過去の報告書で詳細な結果は見たことがある。)前項のコース解説にしてもそうだが、こういったところに日本のトレイルOのレベルの底上げを図るチャンスがあるのではないかと。特に、今の学生は「どうやったらトレイルOが上手くなるか」がわからない、誰もほかの人に自信を持って教えられるという状況がほとんどではないかと考えた。自分

がインカレのコースに関わるからには、こういった状況を少しでも打破していきたくった。これが、今大会でこのようなことを行おうと考えた理由である。結果的にbとdは行ったが、aとcは行わなかった。cは時間的余裕がなかったことと、当日の天候が悪かったことが理由として挙げられる。aは質問内容の検討や印刷などが遅れたのと、アンケートの配布、回収方法を考えるのが後回しになったことから、結果として事前準備が不十分になったことが理由として挙げられる。

10月上旬、1週間前の最後の土日(11月3,4日)までに原図が完成しない見通しになったとの連絡が入った。正直、ここまでギリギリになるとは思っていなかった。次に現地に入ったのは10月27、28日。提供していただくことになっている原図が未完成のまま、フラッグ位置の調整をできる範囲で行った。この時点でコースの回しまでは決まったが、等高線を読ませる課題ではフラッグ位置が決まらなかった。この日までの作業をもとに、暫定的な「コースプランナーのコメント」を書いた。地図の微調整のための現地調査と地図修正は大会の質を大きく左右する。なぜなら課題に対して競技者はいろいろな切り口からアプローチしてくるため、運営側は地図を微調整してどのアプローチの仕方でも正解が導き出せるようできるだけ地図に整合性を持たせる必要があるからだ。これができていないと、後で掲載する西村選手のコメントの最後にあるような「間違っていたところが全く納得いかない」という事態が発生する。しかし、原図がなければそれができない。結局この作業ができたのは大会3日前からだ。大会前日の作業に私自身が参加できなかったため、代わりにこの作業にあたっていただいた方には大きな負担をかけてしまった。当日もバタバタしていた。フラッグやDP、パンチの設置に手間取り、スタート開始を遅らせることとなったり、TCに張るべきビニールシート(選手に予めコントロールが見えないようにするためのもの)をあきらめたりすることになった。

・反省点と今後について

何とんでもない地図が早くにできなかったのが今回の反省点となる。これ以外の反省点にもこのことは大きく関与している。平日に会社を休んで現地で作業しなければ間に合わないという状況が次回以降もあれば運営をしようという人がいなくなってしまう。(しかも今回個人的に忙しい時期でもあり、信用は地に墮ちた。自己責任ではあるが。)最終的に地図もコースも間に合わせて大会は開催できたが、今回は「無事に」ではない。私だけではなさそうだが、それなりの犠牲の上に今大会が開催されたことを認識されたい。また、地図(原図)をジェネシスマッピングに任せればなしである現状も改善されるべきではないかと思う。私は7月から10月までの約4ヶ月間、今大会に関わる作業は(中途半端になった)アンケート関係以外何もやっていない。何か他にできることはなかっただろうか?

スプリントのコントロールが視界に入らないようDPを調整するのも、当日のスタート15分前でなく事前におきかかったことであるし、TCにビニールシートが張れず、事前にフラッグ群が見えてしまっていたことは、競技の公平性を欠くことにはならないのかもしれないが、大会の質を間違いなく落としている。このような細かい改善点は挙げればきりがないほど多い。

最後に、「事前、事後にアンケートを取り、主たる参加者である学生をメインに、今自分が考えてやろうとしていることが参加者のニーズに合っているか確認をする。」ということができなかった点について。これができていないということは、私がやっていることがただの独り善がりである可能性が大いにあるということである。今回の試みが競技者または運営者から見てどう映っただろうか?私としては非常に気になることであるし、この報告を読んでいただいている方で何か意見とまではいかなくとも感想があれば何らかの形で発信していただくと幸いである。

・コース全般のコンセプト

まず、今大会はインカレである。全日本のE権を賭けた指定大会でもあるが、競技経験の浅い選手が多く出場するであろうと考え、「一部の経験者しか知らないようなトレイルO独特のノウハウ」を要する課題を極力排除した。地図から情報を得、その情報を現地と照らし合わせ、論理的に正解を導き出すというトレイルO本来の解法(だと私は思っている)が通用するコース設定を心がけた。(確定点からコンパスを振った時に競技者に許される誤差は5°以内が目安であるとか、正解なしのコントロールの数は全コントロール数の25%以内が目安であるとか、地図を読む取る精度の限界は0.2mmまでであるとか、そういったガイドラインのようなものが存在するが、それらを知らない選手が不利にならないようにした。)余談ではあるが、TAクラスではコースを組む段階で正解なしのコントロールを1つに抑えようと最初から決めていた。これは、正解なしのコントロールの数がガイドラインぎりぎりである大会が(私の知る限り)ほとんどで、このガイドラインを知っている競技者に逆に迷いを起こさせる意図もあったからである。

コース設定者のコメント

A-1. 小さなこぶの南西の根元 (正解 B・正解率95%)

いたって基本的な課題なので、正解率も予想通り高かった。こぶの中心(頂点とは限らない)からの方角を確認していない選手もいるようだが、正解なしの可能性も十分あるパターンの課題なので確認は怠らないほうがよい。素直になれない選手が最初に時間を費やすようにあえてフラッグ2本だけに仕組んだ課題でもある。

A-2. 人工特徴物(コスモダイヤ)の東側 (正解 A・正解率77%)

人工特徴物の東側に直接回り込めないで、高田選手の解法にあるように、人工特徴物の西側からコンパスを振るか、東西方向の線をイメージして特徴物を捉える。特徴物の形が円形の場合は南北方向にコンパスを振って特徴物との接点を求めてもよい。

A-3. 川 (正解 C・正解率82%)

素直な人が多かったのかA-2より正解率が高かったのは意外だった。誤答はDとZがやはり多かった。Zは正解がないという根拠が明確になければならない。

A-4. れき地の西側 (正解 D・正解率75%)

コンパスを振る時は、フラッグの並び方と誤差の関係を気にするとよいかもしれない。誤答はBCEが若干多く、万遍無く分布していた。デフのF欄の表示をヒントにした人はどれだけいるだろうか?

A-5. 小さなこぶの北東の根本 (正解なし・正解率77%)

もう少し正解率が下がることを予想していたが、見抜いた選手が多かった。上位者のほうが正解率が高い傾向にあるので、実力差が出やすい課題だったかもしれない。

A-6. やぶと独立樹の間 (正解 C・正解率89%)

地図と現地の照合はほとんどの選手ができたと思う。「間」という表現の時には2つの特徴物のちょうど中間を表す。

A-7. 乾いた溝 (正解 B・正解率77%)

フラッグが2本しかない。ということを気にせずに回答できるかも隠れたポイント。

A-8. 尾根 (正解 E・正解率77%)

街灯からコンパスを振った角度や、小さな岩からの距離が判断のポイント。誤答はやはりDが最も多い。

A-9. 沢の西の部分 (正解 B・正解率75%)

道からの距離、岩石地との位置関係も判断材料になる。

A-10. 沢 (正解 A・正解率70%)

道から等高線までの距離や等高線の形を参考にするとよい。上位3選手とも等高線の高さは意識している。

TC-1. 沢 (正解 D・正解率86%)

(茂木選手のコメントを受けて)北側からフラッグ群が見えないようにすること、TC部分の地図を隠すこと、運営側はどちらもできていなかった。完全なミスである。Cという誤答が多かったのはなぜだろうか?

A-11. 真ん中の尾根 (正解 D・正解率85%)

正確に地図が読めれば問題なく正解できるようである。

A-12. 北西の尾根 (正解 C・正解率90%)

Bのフラッグ近くのやぶもヒントになったかもしれない。

T C-2. 真ん中の川の曲がりの西側 (正解 C・正解率 44%)

正解率がこのコントロールだけ極端に低い。このコントロールはデフをしっかりと読まないと正解を出すのは難しい。AとBの誤答が圧倒的に多いが、デフを読んでいないか、川の曲がりの「西側」という表記を「正面に向かって左側」という意味にとらえてしまった選手が多いと推測される。(8割くらいの選手に私が地図を渡していたが、デフを読んでいないと思われる選手はかなり多く見受けられた。) 正確にデフを読みきれば、明らかに川の向こう側(東側)にあるAという回答はあり得ない。地図は正置された状態で渡されるが、デフの位置説明にはあくまで「真ん中の川の曲がりの西側」という意味しか表わされていない。(南向きのT Cの難易度が上がるのはそのためでもある。)

N-1. 小さなこぶの南西の根元 (正解 B・正解率 88%)

ほとんどの選手が正解していた。

N-2. 人工特徴物(コスモダイヤ)の北側 (正解 D・正解率 53%)

点状特徴物からの8方位を判別する課題は、選手にとってどう答えを出していいかわかりにくいものだったかもしれない。

N-3. 小川と溝の分岐 (正解 B・正解率 82%)

D Pから離れていろいろな角度から見ればそれほど難しくはないと思われる。

N-4. 池の北西のふち (正解 B・正解率 71%)

Dと答えた選手はいなかったで、小川が池に流れ込むところに正解があることに気づくかどうか勝負の分かれ目だったかもしれない。

N-5. 藪と藪の間 (正解 A・正解率 53%)

2つの特徴物の中間を指す決まりを知らずに忠実に円の中心を求めたか、D Pに戻るのを忘れたか、・・・。

N-6. 真ん中の石塁の曲がり (正解 C・正解率 47%)

D Pに戻るのを忘れると正解のフラッグはBに見える。

N-7. 岩石地の東側 (正解 A・正解率 71%)

間違えた選手の多くはCと答えている。西と東を間違えたか・・・？

N-8. 尾根の上部 (正解 C・正解率 29%)

地図上の目立つ木に気づくのはNクラスとしてはかなり高度だと感じていたが・・・。ほぼ予想通りの正解率となってしまった。

トレイルOのコース解説は、以下のウェブサイトにより詳細なものが掲載されていますので、そちらもご覧下さい。

http://www.orienteering.com/%7Eicl2007/result/trailo/course_analysis.html

イベントアドバイザー報告

日本学連技術委員会 岸野 義宏

1. はじめに

当日は生憎の空模様となってしまいました。入賞された皆さんおめでとうございます。残念ながら納得のいく結果の得られなかった方は、今回の結果をしっかりと受け止め、今後どうすれば良いのかをよく考えてみてください。少なくともチャンスはまだ最低1回は残っています。

2. 活動結果

イベントアドバイザーとしての活動結果を実施規則 34 条 4 項に照らして示します。

・要項の内容を確認すること

要項 1: 特に問題なかったと思います。ただし実施規則上 11 ヶ月前 (= 2006 年 12 月) なのに対し 6 月に公開しているので、かなり遅かった事になります。

要項 2: 特に問題なかったと思います。ただしこれも実施規則上 4 ヶ月前 (= 7 月) なのに対し 8 月に公開しているので、少し遅いです。

要項 3: 「旧マップを会場で閲覧してはならない」という注意事項が抜けていました。その他にも不十分な点があったためか、前日のテクミが長引いてしまいました。また実施規則上 2 週間前でしたが、紙版の配布は直前だったかと思いますが(何とか 2 週間前に WEB 上で先行公開しましたが。なお、私が紙版を見たのはテクミの後でした・・・)。

・会場、トレインの適格性を確認すること

ME/WE ともコース中に長い道走りがあったり、ME は明らかに無理して組んだ感じがあたりしたかと思っています。これはトレインと会場の制約を受けたものであり、その適格性に問題があった事を示すものです。

しかし今回のインカレに限らず、トレインはトレインコントロールワーキンググループで数年前に選定されているため、余程の事情がない限り変更は難しいです。

・スケジュール全体(宿泊、食事、輸送、日程、費用、トレーニングの機会)を確認すること

特に問題なかったと思います。ミドル・リレーと違って宿泊/輸送が実行委員会の管轄外なので、非常に楽でした。

・スタート、フィニッシュ、チェンジオーバーエリアのシステムとレイアウトを確認すること

特に問題なかったと思います。

・計時システムの信頼性と正確性を判断すること

特に問題なかったと思います。スペシャリスト達の協力のおかげ。。

・地図が規定に合致しているか確認すること

・地図の正確さ、作図・印刷の妥当性を確認すること

地図調査完了は前日昼頃、作図完了は前日 PM10:30 頃だったので、前日深夜に確認しました。もし問題があってもどうにもならなかったです。

・コースの適格性(距離、競技時間、難易度、コントロール位置と設置状態、偶然性の排除など)を確認すること

結果だけ見ると、実ウィニングタイムと規定時間とのズレは、ME で 85/80 = 106%、WE で 62/65 = 95% ですから、それほど悪くない数字になっていますが、偶然だと思います。試走が 1 回(しかも 2 週間前=要項 3 に間に合っていない)しかできなかった上、それですら地図が半分しかできてない状況だった(特に新規範囲の北側は白紙で走った)ので、十分確認できませんでした。

・リレーにおいては、コースの分割方法と組み合わせが適切かどうか確認すること

・コントロール位置説明が適切かどうか確認すること

南側の範囲は、前日に西脇と 2 人で手分けして全コントロール確認しました。1 箇所だけ、ME のコントロールで問題があったので位置を変更しました。

また北側の範囲は、前日昼に調査が完了し、PM10:30 に作図が終わるという状況だったので、当日朝に(設置者と一緒に)確認しました。もし問題があってもどうにもならなかったです。

・式典が適切かどうか判断すること

すっかり忘れて撤収に入っていました。すいません(競技責任者が機能不全を起こしていたのも一因なのですが)。西脇が見てくれていたような。。

・競技への影響の可能性の観点から、報道関係者、観客等に対する処遇を確認すること

会場/コーチングエリアともに、特に問題なかったと思います。

競技への影響、というよりも、競技と公園一般利用者との共生に気を遣った、と言うべきでしょう。

・運営組織、人事、会計及び競技運営全般を確認すること

ジェネシス社主導という事で、非常にやりやすかったです。特に会計は一切見せてくれませんでした。

3. 活動内容

前章で活動結果について示しましたが、その内容(実態)は、とても褒められたものではない綱渡り運営であり、どこで開催できなくなってもおかしくないものでした(実際スプリント大会の決勝は使用トレインの変更を余儀なくされています)。次回以降のインカレの参考にさせていただくため、ここでは時系列で報告します。

・2007/5/15

イベントアドバイザーになり、要項1をチェックしました（実施規則第34条よりイベントアドバイザーの決定は1年前であり、同第5条より要項1発表は11ヶ月前なので、かなり遅い）。トレインが岩裂とのことで、ロングには狭いのではないかとコメントしましたが、

- ・何とか組めそうなこと、
- ・すでにトレインコントロールワーキンググループで決定している事項であること、
- ・すでに渉外/地図製作下準備等の作業が進行していること、

等の理由でそのままとなりました。トレインが岩裂に決まると、会場は渉外上の理由から大谷川公園しかなく、踏切を渡らせる必要が生じました。

→トレイン/会場選定の段階で、イベントアドバイザーは決定していないといけな。

でもトレインの計画は学連で決めているので、イベントアドバイザーや実行委員会ではどうにもならない場合もある。

話は逸れるけど、1年前の段階では実行委員会の影すらない場合もあり、この辺は学連でマネージメントしていった方がいいんじゃないかと思う。

・2007/8/1

要項2のドラフトが出てきたのでチェックしました。実施規則では4ヶ月前なので、ちょっと遅い（正式公開は8/10なので、チェック/修正期間は1週間程度）。この時点で踏切を渡ることを公開しました。

・2007/9/11

準備/試走の大日程が実行委員会から提示されました。

が、試走がインカレ2週間前の1回しかなく、そこで問題があると取り返しがつかない（そもそも要項3の発表が2週間前なので、試走せずに要項3を発表することになる）ため、試走を前倒すとともに2回にするように強く依頼しましたが、業者からの回答はなく、どうにもなりませんでした。

→そもそも2ヶ月前に予定を発表している時点で遅いんですけど。

クレームをつけても変更できる範囲は限られますからね。

・2007/10/9

上記大日程には記載されていなかったのですが、インカレ1ヶ月前にしてようやく調査開始とのアナウンスがありました（結局間に合わなくて、以降当日まで調査する羽目になる）。

→そんなことでは2週間前しか試走できないですね。

業者に任せっきりの運営スタイルだと、業者は自分の都合で動くので、今回のように後回しにされることが往々にしてあります。しかも誰が何を言っても効果はないです（私が知っているだけでも十数年、進歩なし）。仕方ないから実行委員会でやったら、「契約違反だ」と猛烈な抗議を受けたことがありました（2006矢板インカレ等）。今回も「こんなに遅くて間に合うのか？」と言ったところ、以下のメールが返ってきました。

これがうちの大会準備のペースですので、まあこんな感じでよろしく願いいたします。

結局間に合っていないということを、来年以降ジェネシスと付き合う人は憶えておいて下さい。

・2007/10/16

要項3の原案（しかもテキストデータのみ）が実行委員長より提示されました。印刷の日程を考えると10/21までに脱稿する必要があると言われていたため、チェック期間が1週間程度しなくて十分ではなかったです（実際はギリギリ2週間前にWEBで何とか公開した）。

・2007/10/28

結局大日程どおり（というかジェネシスの言いなり）、2週間前に最初で最後の試走を実施しました。ただしそれでもまだ半分しか地図は調査されておらず、高速より南側の範囲は未調査の部分に旧マップをムリヤリ貼り合わせて、高速より北側の範囲は白紙のまま、試走しました。

・2007/11/4

ようやく高速より南側の範囲の地図調査が終了。ただし北側は白紙のまま。

この時点で、北側に関してはイベントアドバイザーのチェックなしでインカレを迎えざるを得ないことになりましたが、この部分は前日のジェネシス社主催のスプリント大会決勝でも使用予定だったため、地図がインカレに間に合わないことはないだろうと油断していました。

南側に関しては、ME/WEで使用予定のコントロール位置をすべて確認しました。

・2007/11/8

実行委員長が現地入りして調査進捗を確認し、スプリント大会決勝での使用エリアの変更が決定されました（予選と同じく公園内を使用することになった）。

もしかしたら北側はインカレでも使用できなくなるかもしれない、と覚悟しました。

・2007/11/10（前日）

西脇と分担して南側の全コントロールをチェックしました。

一箇所だけMEのコントロールで位置変更が必要な場所が発覚し、14:30頃に付け替えを実施しました（そのコントロールは前週のイベントアドバイザー確認時から変更されていた...）。

その後テクミに出席しましたが、要項3がボロかったせいか、質問が多かったですね。すみませんでした。

また『会場での旧マップの閲覧を禁止する』という記載がないが、本当に構わないのか？』

との質問があり、結局禁止させていただきました。申し訳ありません。

なお地図調査が完了したのはこの日の昼頃であり、作図完了はPM10:30でした。つまり、イベントアドバイザーが初めて完成した地図を目にしたのは前日の夜中であり、特に新規範囲であった北側のエリアに関しては、できるチェックも机上で可能な範囲に限られてしまいました。

その後印刷が完了したのはAM1:00頃であり、それからシーリング作業を実施しました。

・2007/11/11（当日）

早朝、北側のエリアの設置に入りました。初めて地図を持って入れたのですが、幸い設置に際して問題となる箇所はありませんでした。結局試走はできないままインカレを迎えたのですが。

4. 今後のインカレ運営およびジェネシス社との関係について

今回の運営は全てが後手後手に回っていたのですが、その理由は、ジェネシス社が運営のメインであったにも関わらず、全日本リレーまで手が空かなかったためと思っています。これはジェネシス社任せにする場合に必ず付随するデメリットなのかなと思います。

今回ジェネシス任せにして手を出さなかったのは、私がイベントアドバイザーになる前にそう決まっていたという事と、2005/2006の春インカレの際に実行委員会側で調査しようとしたところ、ジェネシス側から契約違反だと強い抗議を受けたという経緯があったためです。このように、学連とジェネシスの間で独占契約が結ばれていると、実行委員会では手を出せなくなってしまうため、次回契約更新時には見直しを検討してください。

今回のスプリント決勝は2日前になって予選と同じ範囲を使用せざるを得なくなっているのですが、インカレ2日前になって「調査が間に合わなかったからコース短縮します」とか言われる事を、想像した事はありませんか？

今後のインカレのあり方については、学生とOBの間でよく考えて欲しいです（実行委員会というのは恒常的に存在するものではないことが、少し問題を難しくしていますが。また、学連理事とジェネシスが同一人物だというのは問題だと思いますが）。かつてインカレが年2回の開催となった頃に比べると、今の参加者数は半分になっています。それはインカレ予算（収入）の減少だけでなく、今や運営できるOBの減少にもつながっています。こんなことは、2005年のミドル・リレーのイベントアドバイザー報告にも「従来と同じことは、到底できない」とか「ジェネシスマッピング社との関係には、改善の余地がある」とかの記載があるので、今に始まった状況でもないのですが。

将来への提言

実行委員長 木村 佳司

オリエンテーリング・クラシック。それが個人ロング競技である。オリエンテーリングの歴史はロング競技から始まったし、インカレもロング競技から始まり、リレー競技・ミドル競技へとバリエーションを広げてきた。ところが近年、ロング競技を取り巻く環境は決して楽観できない。公平を確保しつつ高い競技性を求めると、それだけ地図を高精度化する必要がある。だが広域なトレインに高精度の地図を確保することは経費面やマンパワー面で難しくなっているのだ。

【1】小さな地図での開催

少ない地図面積でインカレロング大会を行うことを真剣に考える時期が来ている。

一例として以下のような施策をインカレロングで躊躇無く導入すべきである。

- ・ 競技中の Map 交換
- ・ コース途中にバタフライループを導入
- ・ 地図縮尺 1:10,000

いずれを導入しても「ロングらしくない」コース設定になりがちであるが、なるべくロング競技のコンセプトに近いコース設定を目指して、できる工夫をすべきだろう。いずれの施策も現在の競技規則で実施することは可能である。

最大の目的はインカレ品質の維持と、インカレロング大会そのものの維持である。これを実現する条件は数年前に比べて難しくなっている。理由はいろいろとあるが、インカレロング大会の開催を難しくしている原因の最大は、使用するトレイン面積が一般の大会に比べて広いことである。逆にある程度狭いトレイン面積（地図面積）でインカレロングを開催するなら、今後も継続開催できる希望が持てる。日本中の O-map が縮尺 1:10,000 を中心に作成されている昨今、縮尺 1:15,000 を地図の基本にするインカレロングにそのまま利用できるトレイン（地図）は少ない。

基本方針として、インカレロング大会は他大会とのコラボレーションを図りつつ開催されることが確認されているが、こうした競技的要求の違いが、他大会とのコラボレーションを難しくしている。これを解決するひとつの方法として、小さい地図でインカレロングを開催することである。

【2】地図はリメイクベースを基本

もうひとつの提言として、出来る限り地リメイクされた地図を基本とするという点。インカレロング 2007 の準備で明らかになってきたのは、地図仕上がりや現地準備のペースの差である。

今回の準備はジェネシスマッピング社の専任者 2 名が日光地区に大会一ヶ月前に入り、一気に準備を進めてきたものである。もちろんそれまでの下準備としても多くの時間を費やしているのだが、目に見えた成果として現れてきたのは大会一ヶ月前からである。このような短期集中作業は、費用対効果を考えれば最適である。

ただしデメリットもある。それはボランティアベースで行う実行委員・イベントアドバイザーとの間で作業進行速度のバランスが取れなかったこと。今回のトレインの中で新規に図化された部分でこのしわ寄せが顕著になった。実行委員、アドバイザーが試走・確認する日程に該当部分の地図が出来上がっていないという事態が発生した。旧 O-map で図化された範囲はそれでも確認作業を行うことができるが、新規に O-map 化される範囲の確認作業はできなかった。少なくとも、すべての競技を旧 O-map 範囲で行うことができれば、綱渡り運営にはならず済んだ。

専任者とボランティアが協働でプロジェクトを進めようとしたとき、その作業進行速度にはおのずと違いが出てくる。そんなときオリエンテーリング競技の基本となる地図の元があるのと、無いのでは大きく作業効率が違ってくる。インカレロング大会は外部団体との協業やコスト制限により、その進行速度を自由にコントロールできない点がいくつかある。こうしたギャップをうまく埋めてゆくためにも、地図リメイクを基本としたトレインで行うことを推奨したい。

【補足】 山川 克則

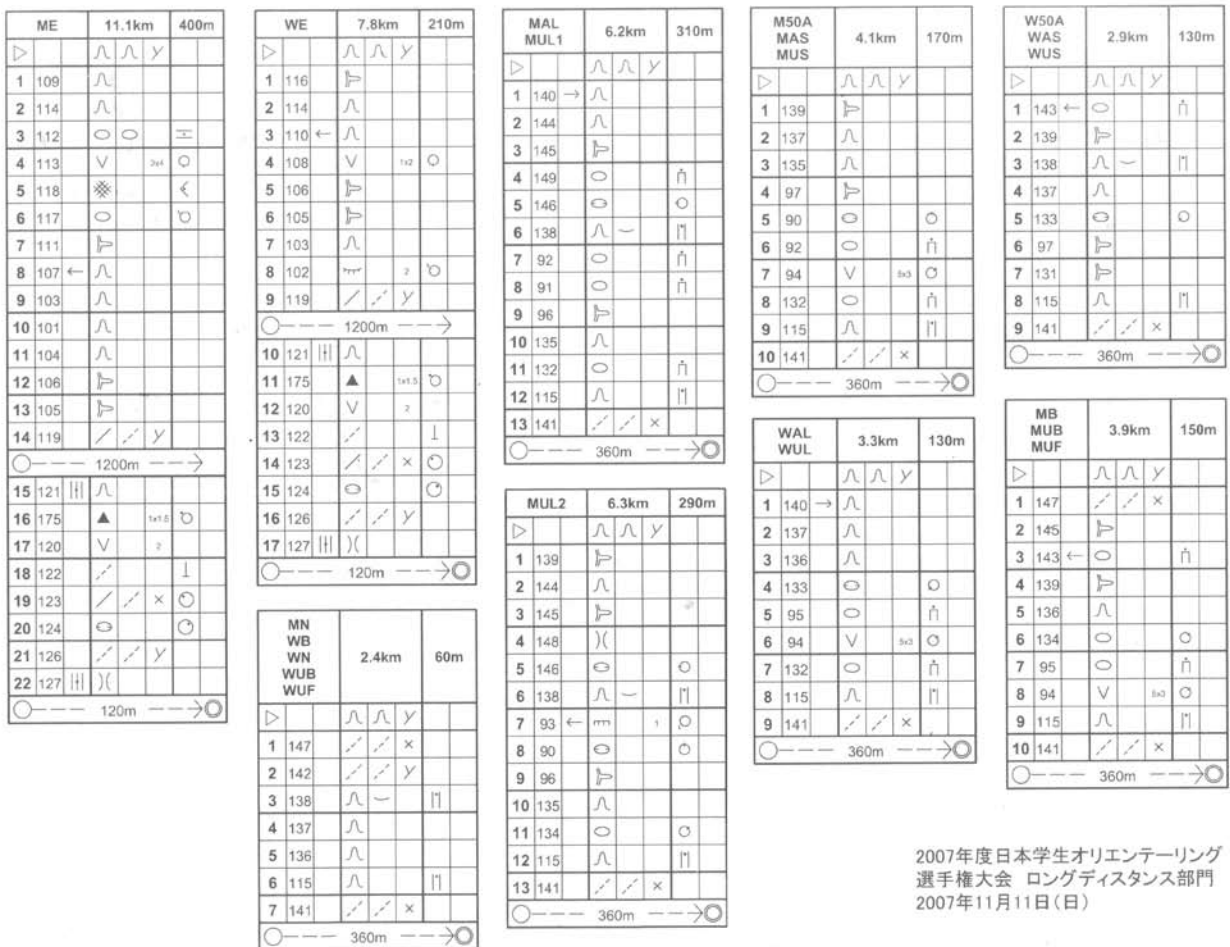
この報告書は、奥付に記載のように、執筆者の原稿をそのまま掲載しています。

しかし、理念的なこと、学連として日本のオリエンテーリング界としての方向付けが、正しい方向に向かわないと、自由な議論もその意味をなしません。インカレの運営に関わられる方は、ともしれば一時的なそのインカレ自体だけの価値観でものを考えがちです。それが今の日本のオリエンテーリング界の環境で通用しなくなっていることに、気づかないままインカレと対面されることがあります。不満をぶつけることは一向に構いませんが、将来の方向性を見誤ることのないように是非お願いしたいものです。

冊中、矢板インカレでのことに触れられている文面がありますが、今のオリエンテーリングの競技レベルに対応できる地図作成は、実行委員の一般公募的なやり方ではもう対応できないのだからこちらに任せて欲しい、というのを聞き入れずに実行委員で調査し、（その間、2ヶ月ほどこちらはほとんど連絡待ちの状態にされれば失業状態だった）結果は試走用のテーピングすらミス設置されているとか、2名の調査範囲は全部キャンセルして最初からやり直したとか、結局は専門家の技量に大きく依存しないと、インカレとしての競技が維持できていなかった、という事実と合わせて、ものは考えていかないとはいけません。

同時に、多くの方がすでに指摘されているように、運営リソースの問題も深刻で、次代の担当者も切実な問題として、ここ数年は立案当初・水面下レベルから一番の相談事になっています。今は、専門家とボランティアが出せる資源を、うまく融通しあってなんとかもがきながらもやりくりしている状態であるといえます。

そんな中開催されたのがこのインカレロングで、他の予定が決まってもインカレだけはインカレレベルとして（矢板のように望外にヒマにさせられても、今回のように忙しい中でも他に担当するところがなくて依頼されれば）日程的・予算的にかかりの無理を承知で行わなければならない、それが長く学連やインカレと関わる当方の責任であるというスタンスです。駒ヶ根のようにループ使用とか、徐々に拡大していくとか、そういう手法無しにいきなりロングであったこと、そして今の加盟員数・参加者数では、コラボレーションという考え方だけではもはや対応しきれず、良質のテレインの末永い継続使用、そのための投資、バックグラウンドとしての渉外活動という観点も今は必要になってきています。また、このレベルの競技用地図を安定して供給していくためには、次代の人材育成という観点もありますが、これがまた恐ろしく時間と費用がかかるもので、その面での投資も今の日本のオリエンテーリング界は（いつ倒れてもおかしくない）民間活力に一方向的に依存しきっています。この辺のことのより詳しい具体的な資料は、幹事会向け、それと今後設立される実行委員会向けに提示させていただきます。



2007年度日本学生オリエンテーリング選手権大会 ロングディスタンス部門
2007年11月11日(日)

2007年度日本学生オリエンテーリング選手権大会 ロングディスタンス競技部門 報告書
 2007年3月8日発行

発行所 日本学生オリエンテーリング連盟
 〒112-0014 東京都文京区関口3-18-2 目白台芙蓉ハイツ 104
 TEL/FAX 050-2012-4825
 ウェブサイト <http://www.orienteering.com/~uofj/index.html>

発行責任者 2007年度日本学生オリエンテーリング選手権大会 ロングディスタンス部門実行委員会
 実行委員長 木村佳司

編集・製作 有限会社ジェネシスマッピング

注：本文中の文言・表現は各執筆者の原稿をそのまま掲載しています。

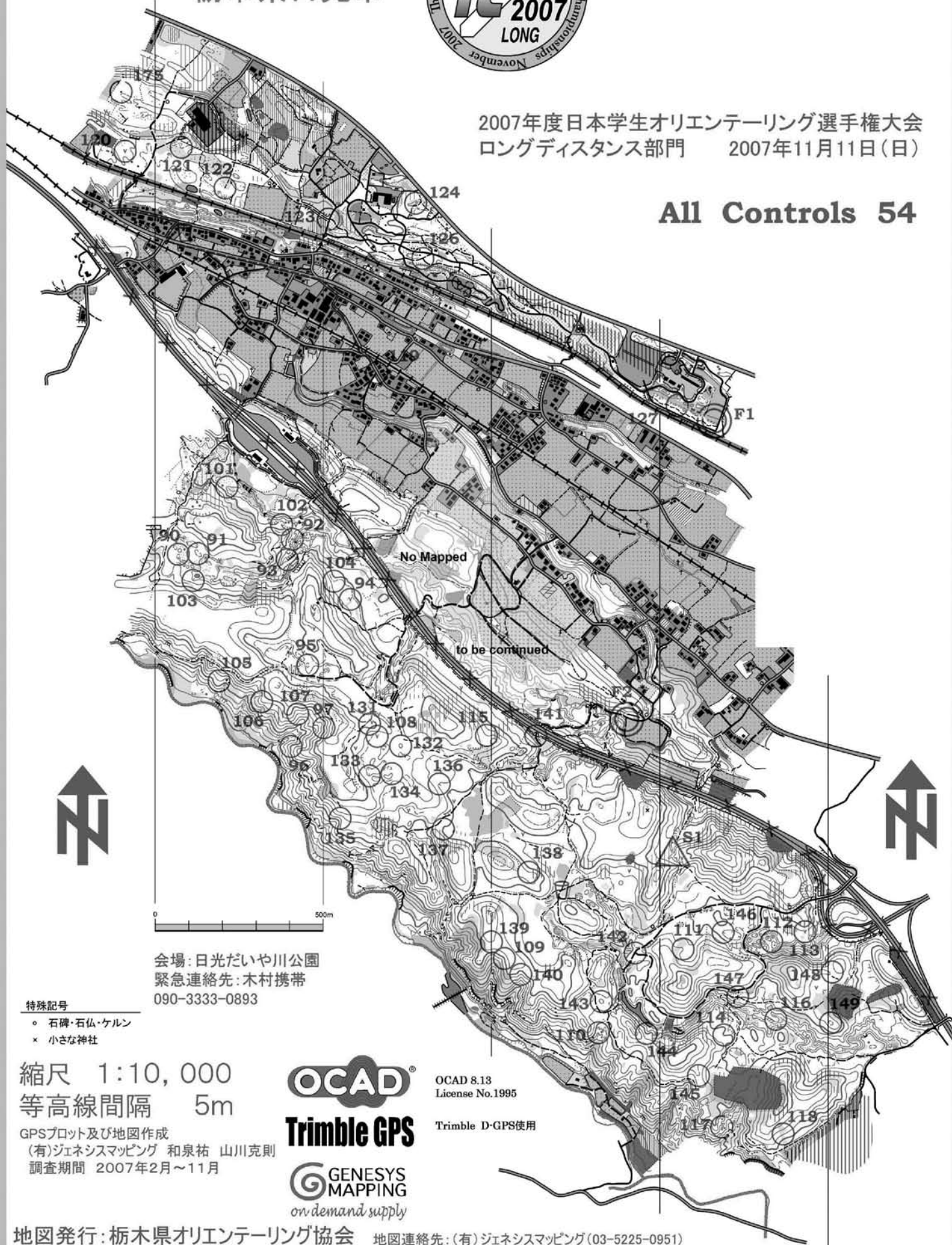
日光口2007

栃木県日光市



2007年度日本学生オリエンテーリング選手権大会
ロングディスタンス部門 2007年11月11日(日)

All Controls 54



会場: 日光だいや川公園
緊急連絡先: 木村携帯
090-3333-0893

特殊記号

- 石碑・石仏・ケルン
- × 小さな神社

縮尺 1:10,000
等高線間隔 5m

GPSプロット及び地図作成
(有)ジェネシスマッピング 和泉祐 山川克則
調査期間 2007年2月~11月

OCAD®

OCAD 8.13
License No.1995

Trimble GPS

Trimble D-GPS使用

GENESYS
MAPPING
on demand supply

地図発行: 栃木県オリエンテーリング協会 地図連絡先: (有)ジェネシスマッピング(03-5225-0951)